

# 創星会

題字：星 猛

元静岡県立大学学長

## ○●創星会とは○●

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養化学専攻の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約1,600名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

## ○●ご挨拶●○

## 静岡県立大学学長 木苗 直秀



## 「皆さんとの再会を楽しみたい」

創星会の会員の皆様にはお元気で御活躍のことでしょう。去る3月11日に発生した東日本大地震は大津波や福島原発事故を伴ない未曾有の災害となりました。被災された皆様には1日も早く普段の生活に戻れることを願うばかりです。

さて、小生、学長を拝命して2年余り、今年は本学が創立25年の節目の年を迎えています。それ故、多くの講演会やセミナーを含むイベントが企画されています。現在5学部、5研究科、環境科学研究所、短大部には約3500名の学生、350名の教員、それに事務職員を加えるとおよそ4000名が谷田と小鹿のキャンパスで勉学に、研究に、クラブ・サークル等に精を出しています。文部科学省で採択された「グローバルCOE」は薬学研究科と生活健康科学研究所が健康長寿学の確立をめざして推進しているプログラムです。来年4月には大学院は薬食生命科学総合学府となり、新たに薬食生命科学専攻が開設されます。

一昨年から、学生と教職員が自由に語る「はばたきカフェ」や、「学長杯争奪駅伝大会」を実施しており、学部を超えて集うこと、語ることが多くなりました。食品栄養科学部では今年も「星・木苗杯テニス大会」、「木苗・大島杯バトミントン大会」の開催が予定されています。総合大学の魅力を十分に發揮できるようにと、学長就任時のキャッチフレーズ「個を拓き、強い絆で知を発信」を座右の銘として、国内外で活躍できる学生を世の中に送り出したいと考えています。今年は、創星会総会が予定されていることから、当日、皆様にお目にかかり大いに楽しく語り合うことを今から期待しています。末筆ながら益々の御発展をお祈り申し上げます。

## 食品栄養科学部長 大島 寛史先生(生化学研究室 教授)



本年（2011年）4月より、第7代目の食品栄養科学部部長を務めることになりました。よろしくお願いいたします。

本学部の設立は、1987年の静岡県立大学の開学時に遡ります。平成23年3月までの本学部からの卒業生総数は、約1200名となりました。開学当時、食品栄養科学部という名称を持つ学部は、国内で唯一でしたが、今日、全国で類似の名称を持つ学部・学科が増えてきております。しかし、静岡県立大学の食品栄養科学部は、日本だけでなく世界の食品科学・栄養学分野の研究・教育をリードする大学・学部として評価され、全国的な認知度も著しく上昇しております。これもひとえに、卒業生の皆さま方が、本学を卒業された後、食品工業界や健康・医療の分野で大いに活躍・貢献されている賜物であると感謝致しております。

さて、1987年に静岡県立大学が開学されて、今年で、早くも4半世紀が過ぎようとしております。今年度は、開学25周年ということで、一年間を通して、様々なイベントが企画されております。食品栄養科学部としましても、シンポジウムや特別講義などの開催を予定しております。在校生だけでなく、卒業生の皆さまにとっても、「食と健康」に関する最新情報を得ることができる良い機会であると存じます。大学・学部のホームページなどで随時ご案内を差し上げますので、皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。

末筆ながら、卒業生の皆さま方がそれぞれの分野で、さらに御活躍されることを祈っております。今後とも、静岡県立大学食品栄養科学部のご支援をお願い申し上げます。

2011年10月1日発行

第14号

発行者 創星会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 食品衛生学研究室)

TEL: 054-264-5528

HP: [http://www.geocities.co.jp/us\\_souseikai/](http://www.geocities.co.jp/us_souseikai/)

E-mail: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

## 生活健康科学研究科長

## 合田 敏尚先生(栄養生理学研究室 教授)



1991年、初代研究科長の星猛先生のもと大学院生活健康科学研究科が誕生してから、ちょうど20年が経ちました。この間、食品栄養科学専攻からは、伊勢村謹先生、木苗直秀先生、小林裕和先生が研究科長を歴任され、本研究科は着実に発展してきました。その後を受けて、私は本年4月に第9代研究科長を拝命しました。これまでの20年を振り返ると、2002年の21世紀COEプログラムの採択、2007年のグローバルCOEプログラムの採択に見られるように、わが国の「食と健康」の学問分野における本研究科の役割は確実に大きなものになっています。グローバルCOEプログラムの集大成として、平成24年度からは、薬学研究科と統合して薬食生命科学総合学府を開設し、新学府の博士後期課程に薬食生命科学専攻を新設する準備をしています。これまでの本研究科の発展は、本研究科で学び、研究に情熱を傾けられた修了生の皆様によって支えられたものです。改めて修了生の皆様に感謝申し上げます。

さて、本年3月に起こった東日本大震災後の混乱に見られるように、現代社会では、環境汚染の広域化と食品の安全性、非常時の栄養の確保など、食と環境をめぐる緊急で困難な課題が次々と押し寄せています。自分を取り巻く世界をよく理解して、状況に正しく対処するために、専門知識を最大限に活用して、画期的な解決策を提案する意欲をもった専門技術者が必要とされています。修了生の皆様方は、「食と健康」のエキスパートとして、益々貴重な人材になっています。ひとり一人の努力が大きな変革を生み出す原動力になることを希望してやみません。修了生の皆様の益々のご活躍を祈念申し上げます。

## 食品栄養科学専攻長 小林 裕和先生(植物機能開発研究室 教授)



東日本大震災とそれに引き続く原発事故に対して、「未曾有」と「想定外」が多用されています。前者は麻生太郎が2008年に、後者は堀江貴文が2005年に使い、流行語になりました。私は、2005年度に食品栄養科学専攻長を務めさせて頂き、2006年度から5年間大学院生活健康科学研究科長を拝命しました。研究科長の任期は、2期4年が最長ですが、私の場合は、途中で大学法人化が入ったため、異例の5年間となりました。この間、大学院生活健康科学研究科と大学院薬学研究科を統合して、来年4月の「薬食生命科学総合学府」の開設にこぎ着けたのが成果の1つであり、また大きな失敗もなく任期を全うできたのは、皆様方のお陰であると感謝しております。今年4月から食品栄養科学専攻長を務めさせて頂くこととなりました。このように、専攻長と研究科長を行き来するのは、未曾有であり、私にとっては想定外でありました。

原発事故において、津波の規模が想定外であったとは、説得力に欠けます。何故なら、1896年に起きた明治三陸地震では38.2mが記録されているからです。「想定外」とは言い訳にしか聞こえません。研究には2つの想定外があります。1つは発見の想定外であり、これは想定外であるほど意味があります。一方、研究の実用化においては、想定外では困ります。「想定内」でなければなりません。食品栄養科学部と同専攻におけるこれらの「想定外」と「想定内」の研究の発展と社会貢献を期待します。昨年度は同窓生である増田修一准教授と円谷(常賀)由子講師のご協力を得て、同窓生名簿を整備しました。これを活用させて頂き、同窓生との一層の連携を図らせて頂けると有難く存じます。

## 管理栄養士国家試験100%合格!



創星会の皆様、こんにちは。私は平成22年度管理栄養士国家試験対策委員として、1年間4年生の皆さんのお世話役・相談役として国家試験対策のサポートをしてきました。

タイトルにありますように、平成22年

度は、食品栄養科学部・栄養生命科学科卒業生は管理栄養士国家試験に100%合格致しました。全国の管理栄養士養成施設111校の新卒受験で100%合格は5校(震災の影響で受験者数が少なかった大学を除く)であり、本学はそのうちの1校です。全国平均の合格率は40.5% (管理栄養士養成課程新卒 82.1%)でした。

これは、学生の皆さん方の努力の成果と先生方のご指導のおかげと感謝しております。本年合格された皆さん方は、管理栄養士の免許を取得されほっとされている事と思いますが、日々たゆまぬ努力を積んで日本のリーダーとなる管理栄養士に育って欲しいと願っております。

(栄養教育学研究室 准教授 桑野稔子先生  
助教 井上広子先生)

## Webサイト「食と健康Express」新設

<http://sfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/express/>

「食と健康Express」は、当学部・研究科(専攻)の食と健康に関する教育活動や研究成果を県民に情報発信することを目的に新設されました。そこで、「OB・OGの活躍」として、皆様の素晴らしいご活躍を紹介するページを企画しました。新商品の研究・開発、患者様のケア、地域保健活動、近況報告など、企業・病院・団体などの宣伝にならない程度に、アイデアに富む原稿をe-mail : [kenkou@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:kenkou@u-shizuoka-ken.ac.jp) で、もしくは封筒に「食と健康Express」と明記し郵便で、関連資料を添えて広報担当にお送り下さい。皆様からの原稿をお待ちしております。



(H23年度広報担当 公衆衛生学研究室 栗木清典先生)

## ○●新任教官の紹介●○

### 新井 映子先生 (教授:調理科学研究室)

平成 22 年 10 月 1 日に、貝沼やす子先生の後任として調理科学研究室に着任した新井映子と申します。前任校は静岡大学教育学部で、主に家庭科教員の養成に携わってきました。静岡大学以前も、東京学芸大学と島根大学で教員養成を本務としてきましたが、いつかは食に関係する職業に就く学生さんを育ててみたいと考えておりました。そのため、静岡県立大学への転任により、私の長年の夢が叶いました。専門は調理科学で、近年の研究テーマは、主食である米飯やパンの物性改変方法の検討、咀嚼・嚥下困難者用食品の開発、新規機能成分を富化した機能性食品の創製などです。畠違いの学部から赴任してきたため、まだまだ慣れないことが多く、授業や実習で日々戸惑っておりますが、恵まれた環境の中で研究や教育に専念できることに感謝して、努力してゆきたいと思います。創星会の皆様方には、教えを請うことばかりかと思いますが、今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。



### 遠藤 香先生 (助教:公衆衛生学研究室)

平成 23 年 4 月付で公衆衛生学研究室に着任いたしました遠藤香と申します。私は、学位取得後、独立行政法人 国立健康・栄養研究所を経て、この 3 月まで新潟県立大学に助手として勤務しておりました。

食と健康に関する問題が注目される昨今、正確な知識を背景として、確かな判断のできる食の専門家の育成が必要であり、微力ながらそのお手伝いをさせて頂けることを幸せに感じております。教育や研究活動を通じ、食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻の学生の皆様に関わらせて頂きたく存じます。学生の皆様により良い教育の機会をご提供できるよう、研鑽を積んで参りたいと考えております。皆様のご指導とご支援を賜りますよう、お願ひいたします。最後に、創星会の皆様の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



### 島村 裕子先生 (助教:食品衛生学研究室)

平成 23 年 4 月より、食品衛生学研究室の助教に着任いたしました島村裕子と申します。私は、お茶の水女子大学で修士、博士課程を過ごし、その後、同大学の生活環境教育研究センターの研究機関研究員を経て本学に赴任いたしました。私はこれまで、主に「黄色ブドウ球菌」を対象に研究を行ってまいりました。幸運にも本学でも食中毒菌を扱う研究を継続できることになりました。「継続は力なり」が好きな言葉です。研究テーマを継続できる幸運を最大限に活かしていくとともに、これまでの研究では経験していない新たな手法も積極的に取り入れていきたいと思っています。教育の面では、学生により近い位置に身を置ける立場を活用し、可能な限り学生と向き合い、一緒に研究テーマについて追求したいと考えております。教育・研究を通じて、大学の発展に貢献すべく努力していきたいと思います。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



### 吉田 卓矢先生 (助教:臨床栄養学研究室)

平成 23 年 6 月 1 日付で臨床栄養学研究室の助教に着任いたしました吉田卓矢と申します。私は 2008 年に本学の生活健康科学科博士前期課程を修了した卒業生です。この 5 月まで磐田市立総合病院で管理栄養士として勤め、主に慢性腎臓病の栄養指導を担当しておりました。実際に患者と接することで、病気の辛さや回復への喜びなど多くのことを経験しました。今後は病院で得た経験や知識を活かして、患者の治療に役立てる研究をしていきたいと考えています。また、栄養士という職業を活かした研究テーマにも取り組みたいと考えています。まだまだ教育者としてだけでなく社会人としても未熟者ですが、学生とともに切磋琢磨して日々成長して行きたいです。創星会の皆様には今後ともよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

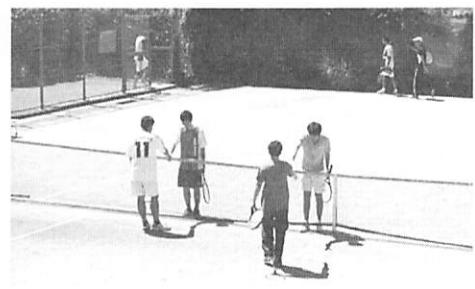
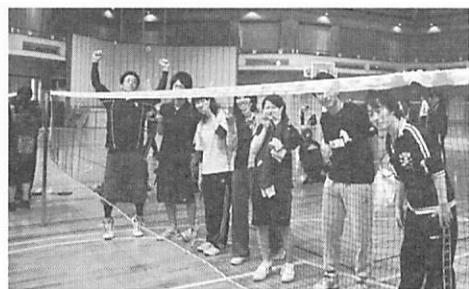


## ○●各種学内スポーツイベントを開催●○



平成 22 年度も食品栄養科学部では様々なスポーツイベントが開催されました。7 月の星・木苗杯（テニス大会）では、20 回目という節目の大会を迎えて、焼けるような暑さの中、存分にテニスを楽しみました。12 月の木苗・大島杯（バドミントン大会）では、過去最多の参加人数となり、大いに盛り上りました。学長杯争奪学内駅伝大会は、テニスコートまでの坂道を駆け上がり、県大の周りを 1 周するという過酷なコースではありましたが、本学部からは多くのチームが出場し、大会を盛り上げました。また、3 月には駿府マラソンに参加し、全員完走を果たしました。

いずれのイベントにおいても、普段話す機会の少ない、教員、大学院生、学部生が一緒になってスポーツを楽しみ、親睦を深めることができました。



## ★会計中間報告（平成23年9月1日現在） 会計 大石

年月日	項目	収入	支出	残高
H22.10. 1				¥2,635,101
H22.10. 8	ラベル代・プリンターインク代		¥8,520	¥2,626,581
H22.10.14	会報印刷費(鈴与システムテクノロジー、振込手数料込)		¥144,837	¥2,481,744
H22.11.15	郵送料（会報誌送料）		¥227,180	¥2,254,564
H22.11.19	はがき代		¥52,000	¥2,202,564
H22.11.25	アルバイト代（6月～11月分×2名）		¥150,000	¥2,052,564
H23. 2.24	郵便料（料金後納10～1月分）		¥77,060	¥1,975,504
H23. 3.25	H22年度卒業・修了生（100名）会費	¥200,000		¥2,175,504
H23. 4. 1	調整費（H22.10.1～H23.4.1）	¥720		¥2,176,224
H23. 5. 6	学部生入学時同窓会費	¥1,154,860		¥3,331,084
H23. 7.11	ホームページ月管理費(H23.6～H24.5)（振込手数料込）		¥18,410	¥3,312,674
H23. 7.11	パート賃金（6月分）		¥15,000	¥3,297,674
H23. 7.28	ホームページシステム設定料（振込手数料込）		¥16,210	¥3,281,464
H23. 7.28	パート賃金（7月分）		¥15,000	¥3,266,464

## ☆静岡県立大学創立25周年記念創星会シンポジウムの開催について

本年度、静岡県立大学は創立25周年を迎え、多くのシンポジウム等を開催し、またホームカミングとして卒業生に向けての各種イベントを学内で実施しております。食品栄養科学部同窓会である「創星会」においても、卒業生を講師としてお迎えして、記念シンポジウムを開催することになりました。日時等につきましては以下に示します。多数の皆様のご参加お待ちしております。

場所：静岡県立大学 看護学部棟 4階 13411室

日時：平成23年11月19日（土）

12:30～12:45（創星会総会）

13:00～16:50（シンポジウム）

17:00～19:00（懇親会：学生ホール）会費3,000円（予定）

### <シンポジスト>

- (1) 磯野協一（食品学科1期生）（理化学研究所）
- (2) 橋詰昌幸（栄養学科2期生）（株式会社フード・デリ）
- (3) 大谷 亨（食品学科3期生）（神戸大学大学院工学研究科）
- (4) 円谷由子（旧姓：常賀）（栄養学科5期生）（静岡県立大学食品栄養科学部）
- (5) 宇津木志のぶ（旧姓：鈴木）（栄養学科5期生）（静岡県健康福祉部医療健康局）
- (6) 境谷真男（食品学科7期生）（株式会社ロッテ）
- (7) 濱坂友子（食品学科12期生）（サーモフィッシュサイエンティフィック株式会社）
- (8) 鈴木拓史（栄養学科13期生）（山形大学 地域教育文化学部）

### 出欠のご連絡のお願い

本会報誌と同封しましたハガキに記入して郵送、または創星会のe-mailアドレス [souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp) に出欠の連絡をお願い致します。

#### 出欠の連絡には

1. 出席（総会から）
  2. 出席（シンポジウムのみ）
  3. 出席（シンポジウムと懇親会）
  4. 出席（懇親会のみ）
  5. 欠席
- をご記入して下さい。

よろしくお願い致します。

### 【会費未納の方へ】

年会費を同封の振込用紙にて下記の郵便振替口座に納入してください。一回の振込みは2年分、2,000円です。未納の方には次回以降の会報等の発送を行いません。創星会は皆様の会費によって運営されています。ご協力の程お願いいたします。

口座番号: 00810-8019320、名称: 静岡県立大学食品栄養同窓会 創星会、金額: 2,000円

### 【住所を教えてください。】

創星会会報を送付した際に、返送されてしまう場合が多数ございます。住所変更等ございましたら創星会事務局（TEL 054-264-5528、E-mail: [souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp)）または学年幹事までご連絡ください。